

私とオリンピック —記憶に残るオリンピック—

大谷高志

1. はじめに

この原稿を書いている今、リオデジャネイロオリンピックの真ただ中です。日本はいくつメダルを獲得するのでしょうか。結果が楽しみです。

さて、これまで5回の連載はすべて札幌オリンピックでした。今回は趣を変えて私の中で記憶に残るオリンピックと、最後に2020年の東京オリンピックおよび2026年に誘致を目指す札幌オリンピックに寄せる思いについて書かせていただきます。

2. 記憶に残るオリンピック

私がこの世に生を受けた1960年(昭和35年)以降、夏季、冬季ともに15回のオリンピックが開催されています。これらの内、特に記憶に残る7回のオリンピックについて記します。

(1) 1968年 メキシコシティオリンピック(夏季)

私が浦河小学校の2年生の時に開催されました。先の東京オリンピックの時は4歳でしたが、記憶がまったくないのでこの大会が私にとって記憶に残る最初のオリンピックです。大会の5か月前にはマグニチュード7.9、浦河町では震度5を記録した十勝沖地震が発生しました。初めて体験した大きな地震でした。競技の結果は記憶にありませんが、毎日夜中に競技が行われているのが不思議で、地球上に時差があることを知った大会でした。

【開催期間】1968年10月12日～27日

【日本の獲得メダル数】金11、銀7、銅7、計25

(2) 1972年 札幌オリンピック(冬季)

私が小学校5年生の冬に開催されました。札幌は私にとって遠すぎて、時差が無いだけの異国で開催されているような感じでした。どちらかと言えば

競技よりもペプシコーラの王冠の裏に印刷されていた競技のエンブレムをすべて集めるために、毎日何本も飲んで腹を壊して母親に叱られた記憶があります。印象深いのは表彰台を独占した70m級ジャンプとトワ・エ・モアが歌った「虹と雪のバラード」です。歌詞に「影たちが飛び去る ナイフのように」というのがあります。「ナイフのように飛び去る」という意味が今でもわかりません。ご存知の方、ぜひ教えてください。長年の胸のつかえがとれます。

【開催期間】1972年2月3日～13日

【日本の獲得メダル数】金1、銀1、銅1、計3

(3) 1972年 ミュンヘンオリンピック(夏季)

札幌オリンピックが行われた同じ年に開催された夏季オリンピックです。私は小学6年生になっていました。この大会では史上最悪の悲劇が起きました。パレスチナゲリラによるイスラエル選手宿舎の襲撃事件で、イスラエル人の人質9人、犯人側のゲリラ5人、警官が1人死亡するというものです。国内では札幌オリンピックが閉幕した6日後に連合赤軍による浅間山荘事件が起きています。世界中でテロ事件が起きていた時期でもありました。このミュンヘンオリンピック事件から、オリンピックの警備が厳重になったと思います。

【開催期間】1972年8月26日～9月11日

【日本の獲得メダル数】金13、銀8、銅8、計29

(4) 1980年 モスクワオリンピック(夏季)

大学2年生の時に開催されました。ただし、このオリンピックには日本は参加していません。当時のソ連がアフガニスタンに侵攻したことに対する西側諸国の集団ボイコットです。柔道の日本代表だった山下泰裕氏が日本政府に対して涙ながらに参加を陳情している姿を今でも覚えています。「スポーツと

政治]の関係が初めて問われた大会になりました。

【開催期間】1980年7月19日～8月3日

【日本の獲得メダル数】不参加

(5) 1998年 長野オリンピック(冬季)

私は37歳、前年に技術士に合格して公私ともに脂ぎっていたころです。ジャンプ団体で前回大会の雪辱を果たした原田雅彦選手の「ふなき～」の声が今でも耳から離れません。スピードスケートではスラップスケートが初めて登場し、「ロケットスタート」の清水宏保選手と「朋美スマイル」の岡崎朋美選手の活躍があった中で、スラップスケートへの対応が遅れた堀井学選手(現衆議院議員)の悔し涙が印象的でした。新米技術士にとって「新技術への素早い対応」の重要性を教えられた大会でした。

【開催期間】1998年2月7日～22日

【日本の獲得メダル数】金5、銀1、銅4、計10

(6) 2006年 トリノオリンピック(冬季)

私は45歳、青年技術士ではなくなりました。フィギュアスケート荒川静香選手のイナバウアー、この大会で獲得した唯一のメダルです。どういうわけかカーリングが長時間テレビ放送され、国内の競技人口の増加につながりました。何がきっかけになるかわからないものです。

【開催期間】2006年2月10日～26日

【日本の獲得メダル数】金1、銀0、銅0、計1

(7) 2014年 ソチオリンピック(冬季)

今から2年前で記憶に新しいオリンピックです。私は53歳、すでに血圧と尿酸値を下げる薬が手放せなくなっていました。注目は女子ジャンプで絶対的な強さで金メダル間違いなしと言われていた高梨沙羅選手。4位で終わってしまいました。対照的だったのはジャンプ競技のレジェンド葛西紀明選手。年齢を重ね、苦勞してようやくつかんだ銀メダル。「諦めない気持ちと人一倍の努力」、私にインセンティブを与えましたが、行動が未だに伴っていません。

【開催期間】2014年2月7日～23日

【日本の獲得メダル数】金1、銀4、銅3、計8

3. おわりに

私にとってのオリンピックの記憶は、自分がいた

時代の歴史でもあります。今後国内では2020年に東京オリンピックが開催され、札幌市では2026年の冬季オリンピックの誘致を目指しています。

最後にこれらの大会に寄せる思いを記します。

(1) 2020年 東京オリンピック

私は60歳の定年を迎えます。誘致活動では「オリンピックを東日本大震災からの復興のシンボルに(復興五輪)」という言葉掲げていました。言葉通りであれば、私の記憶には「復興を成し遂げ、被災者に夢と希望を与えたオリンピック」として残るはずで。そうでなければ、国民や世界中の人たちを欺いたこととなります。

(2) 2026年 札幌オリンピック(誘致活動中)

生きていれば私は65歳、後期高齢者の仲間入りです。1972年の大会当時と違って、札幌市内の小中学校ではスキー授業が減り、中学校ではスキー授業がありません。私が生まれ育った浦河町でも小中学校の校庭にスケートリンクが作られなくなりました。教育現場がウィンタースポーツに力を入れていると思えない現状と、北欧諸国に比べてウィンタースポーツへの興味が薄い北海道民が多い中で、誘致するメリットはあるのでしょうか。開催された場合、私の記憶に「高額な開催費用を使って得られたメリットは、北海道新幹線の札幌までの早期開業だけだった」として残る大会にならないことを望みます。

追記)

リオデジャネイロオリンピックの開催中の8月11日に大学同期が急逝しました。彼の生前の思い出とともに記憶に残る大会になりました。

.....
大谷高志(おたに たかし)

技術士(建設/総合技術監理部門)

和光技研株式会社 技術管理部

